

海外生活 エッセー

パリ事務所

6月21日は フェット・ド・ラ・ミュージック♪

(一財)自治体国際化教会パリ事務所 所長補佐 山本 さやか (岡山市派遣)

フランスでは、朝の5時半頃から22時過ぎまで明るい夏に比べて、冬季には日照時間は10時間を切ります。加えて、秋から冬にかけて曇りの日が多く、太陽は恵みの存在と考えられています。まるで、そんな太陽をたたえるかのように、1年のうちで最も昼の時間が長くなる夏至の日、6月21日に、毎年フェット・ド・ラ・ミュージックという音楽祭が街の至るところで一晩中行われます。

→ 至るところに音楽を!

1980年代、フランスには市民が一緒に音楽文化を共有できるような場がないと感じていた文化省のモーリス・フルーレ音楽舞踊局長は「至るところに音楽を!」というコンセプトで、ジャンルを問わずあらゆる音楽と市民が出会うことを目的とした音楽界の改革を目指しました。

そして、1982年に行われた文化に関する調査で、これまで企画されてきた音楽イベントは一部の人にしか関係していなかったにも関わらず、当時の国内の楽器演奏人口500万人の半数が若者であることが分かり、当時のジャック・ラング文化大臣らはフランスにおける音楽の発展可能性を感じました。そこで、音楽活動を行うすべての人が考えや感情を表現し、有名になるような一大イベントを企画しました。それが、フェット・ド・ラ・ミュージックです。

創設時のコンセプトに沿って営利目的でなければ、だれでも、どこでも、いかなるジャンルの音楽でも、無料で、音楽を演奏し、聴くことができます。

また、1985年のヨ

ロッパ音楽年をきっかけに世界各地に広がり、現在では世界120か国以上で毎年同日に開催され、国際的な成功を博しています。

→ 音楽に言葉はいらない

私が所属しているパリ・アプリコ合唱団は、パリ在住の日本人が2012年に創立した日仏混声アマチュア合唱団で、「さくらさくら」や「翼をください」など日本の曲を中心に歌っています。昨年のフェット・ド・ラ・ミュージックでは上記の曲に加えて、「いつも何度でも」や「さんぽ」などスタジオジブリの映画作品で使用されている曲も歌いました。スタジオジブリの映画作品はフランス語の字幕つきDVDとして販売されているだけでなく、テレビでも放映されることが度々あり、フランスでも大変よく知られています。私たちが日本語で歌っても、多くのフランス人が立ち止まり、一緒になってリズムをとったり、「アンコール」の声をかけてくださったりしました。とりわけ「いつも何度でも」と「もののけ姫」はフランス人に好評でした。言葉は分からなくても音楽を通して、歌い手と聞き手が一緒になり、音楽はすべての人のものであると感じたひとときでした。



Fête de la music サイト
<https://fetedelamusique.culturecommunication.gouv.fr/>



2017年オペラ座界隈の日本人街の一角で歌ったときの様子